

## 高野山・伊勢神宮参拝（その二）

—長崎史談会研修旅行記—

長崎史談会幹事 日宇孝良

二日目は三輪大社(大神神社)、多武峰(談山神社)、長谷寺、室生寺等を参拝見学。談山神社は藤原鎌足を祀っていて、この本殿の裏山で、鎌足が中大兄皇子と大化改新を企図して極秘の談合を行ったところと伝えられている。

三輪山の 神を拝みて 我歩く

山の辺の道は 上古の道なり

(大神神社三輪明神に参拝して山の辺の道を遊歩した。100円で

きわめて個人的なことだが、私は大神神社の休憩所で食事した後、トイレでデジタルカメラを忘れ、翌日確認したら神社社務所に届けられていて、郵送してもらったという幸運に恵まれた。

室生寺は学生時代研修旅行で京都・奈良を巡った時、感傷的な美意識を誘ったところだが、今回は人の後尾について行くのがやっとで、自らの気力・体力のなさをリアルに感じさせるところとなった。

若き日に 恋人連れて 室生寺に

来る日願いて 今友と来る (夢迷)

室生寺の 五重塔よ なつかしき

いまなき人の 土産の土鈴 (一如)

二日目の宿は伊勢市の「千の杜」という温泉のある立派なホテルだった。夕食会は自己紹介での一口スピーチで詩吟「黒田節」の披露もあって盛り上がった。三日目の朝は伊勢神宮へ。まず外宮から。24時間交代警備だという門衛が人形のように全く動かないのが印象的だった。次に五十鈴川で見を浄め内宮へ。



遷宮の 槌音響く 伊勢の杜

心静かに 玉砂利を踏む(幸多)

神無月 諸処の神々 出雲行き

伊勢の大神 いずこにおわすや(幸多)

清らかな 流れの岸边 五十鈴川

手を清めて 旅の無事祈る(一如)

神宮の 白き玉砂利 踏み進む

君の靴音 想い出しをり(一如)

鳥居とは 鶏のとまり木 師の声を

聞きつ見上げて 天空仰ぐ(一如)



おかげ横丁で昼食と買い物・休憩タイム。再びバスに乗って名勝の地二見ヶ浦を見学。中部国際空港には予定より早く着いたので、空港でゆったりした時間を過ごした。長崎空港に18:45に到着し、旅の思い出を胸に家路に向かった。

旅のよさは普段のつきあいではわからない仲間の人柄とか経験を知ったり、今まで交流のなかった人と知己になったり、人生を楽しく味わい深いものにする。そしてその場をもりあげてくれるエンターテイナーとか、表や裏で支える頼れる人がいる。

ひらめきで 言葉を紡ぐ にぎやかに

笑いの中で 人の輪つくる(夢迷)

平時にも 激しく動き 叱咤する

時代が求む 武士の面影(夢迷)

(短歌協力 栗原真高・高木孝一郎・原口和代

画 福田哲也 写真提供 原田博二)

完